



“ガス窯作りのプロ集団・大築窯炉工業”の

陶芸家と窯屋を結び超アナログ情報誌

2009・4月号

# 月刊 窯ナビ

必ず良いことがある人のために送る！  
DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

ウラ面も情報満載

【発行日】2009年4月30日 【発行人】(株)大築窯炉工業 谷口浩司  
〒309-1611 茨城県笠間市笠間2192-5 TEL0296-72-1444 【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

## 山中写真館・山中晃氏“写真でみんなに喜んでもらいたい！”



【プロフィール】

1962年 笠間生まれ  
1984年 東京工芸大学写真技術科を卒業  
1987年～山中写真館 現在に至る

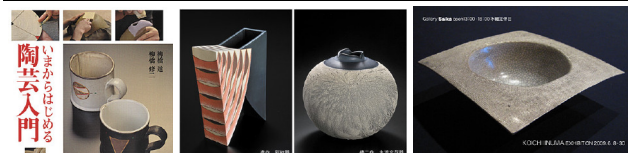
谷口：写真館の三代目としてこれからやりたいことは何ですか？  
山中：皆様に喜ばれ思い出に残るような写真をつくってゆきたいです。  
谷口：陶芸家に対する DM を制作していますが、どういうことを言われると嬉しいですか？  
山中：DM 写真の作品が最初に売れたと言われると嬉しいですね。  
「実物よりいい」と冗談を言ってくれる人もいますよ(笑)。  
谷口：陶芸家に対する DM 制作では特に思いや考えはありますか？  
山中：笠間は個性的な作家さんが多いので、写真を通じてやきものの良さを知ってもらいたいですね。きびしい世相なので作家さんの要望を聞いて満足のいく仕上がりにしたいです。  
谷口：笠間になにかこだわりはありますか？  
山中：生まれ育った街なのでもっと活気付けてほしいですね。  
谷口：どんな時にやりがいを感じますか？  
山中：自分が制作した写真で喜んでもらえた時です。  
谷口：街づくり活動もされていますね？  
山中：商店街の理事長をしています。きびしい予算ですが街の良い雰囲気作りにも努めています。

### 【デジタル写真で苦労したこと】

写真館を継いだ直後はまだフィルムが全盛でした。デジカメが出てからも暫くはフィルムの仕事にこだわっていました。しかし、制作日数の短縮とコスト削減ができるように 2002 年からデジカメを導入しました。デジカメではフィルムのような表現をすることが難しく、とても苦労しました。どうしても写真が平面的になりやすいため照明やものの置き方を工夫しなければなりません。やきものの写真もフィルムに近い雰囲気できるようにすることが私の目標でもあります。70%位は近づいたかなと思います。陶芸家の皆さん気軽に御相談ください。



### 山中写真館の仕事ギャラリー

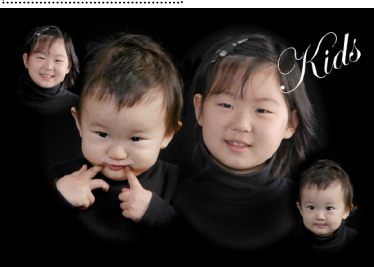


作家さんが撮影した写真からDM作成もOK

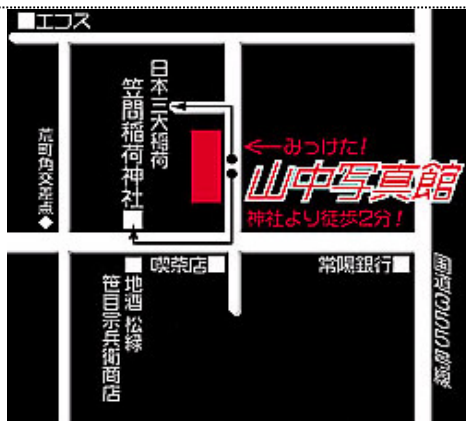
やきものなどDMの写真撮影

七五三などの記念写真

「いまからはじめる陶芸入門」など書籍の写真撮影



キッズフォト



【お問合せは】  
〒309-1611 茨城県笠間市笠間1263-2  
電話0296-72-0164  
yama-chu@abelia.ocn.ne.jp  
個展情報のページも充実！  
【検索ワード 「山中写真館」で一発検索！】



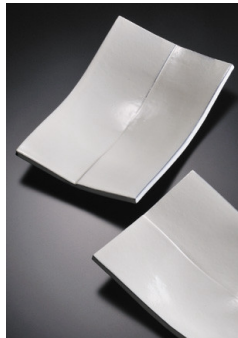
## ユーザーさんの個展情報



島田恭子さん他  
さくら市ミュージアム  
—荒井寛方記念館—第70回企画展  
桜な時季・平成21年4月10日(金)～5月24日(日)



沼野 秀章 陶展  
6月20日(土)～7月5日(日)  
かつら陶芸  
笠間市下市毛47-3  
TEL.FAX 0296-72-6688



鈴木 環「粉引の器」展  
ギャラリーやまと  
2009年5月26日(火)～6月1日(月)  
茨城県日立市大久保町4-10-30  
TEL0294-33-1667(駐車場完備)



櫻井理人・(櫻井)あゆみの陶展  
2009.5.9(SAT)～31(SUN)  
ギャラリー 舞台  
笠間市笠間2518-8 月曜日定休(祝日は翌日)11am～6pm

## なるほど！釉陶里炉・学習帳 名前の由来・・・「辰砂」



辰砂鉱石  
'ウィキペディア・フリー百科事典'より

辰砂とは本来硫化水銀からなる鉱物で、中国の辰州(現在の湖南省近辺)で多く産出したことから「辰砂」と呼ばれるようになったそうです。この硫化水銀は赤い色をしていて銅を使ったやきものと色が似ていたため、このやきものことを辰砂と呼ぶようになりしました。したがって辰砂釉の名は硫化水銀から成る天然朱の「辰砂」の色から名付けられたものと考えられます。辰砂釉を調べてみると先人がいかに苦労したかが想像できます。京都の陶工・宇野仁松氏は辰砂の作法を研究、確立しご子息の宇野宗太郎氏が一般に公開、その作法の秘密について内藤匡(ないとうきょう)氏が解説しています。それによると、やきものを窯に入れて温度が上がったとき、銅の釉だけだと飛んでしまうので、上に押さえる意味で錫の釉をかけるのだそうです(参考文献「やきものの秘密と謎」)。

### 「コロイド」とは

辰砂釉はコロイド状の銅が赤を発色すると言われていています。ではこのコロイドとは何でしょうか。「陶芸の彩色技法」によると、「たとえば、空气中に吐き出されたたばこの煙や、水のなかに墨汁をたらしたときなど、たばこの粒子や墨汁の粒子は、ついには空気や水と同化してしまうように見えます。このように、物体が周囲の小さな分子の熱運動による衝突を受けて起こす不規則な運動をブラウン運動といいます。釉中においては、銅のコロイド粒子も同様の動きをし、ようするにブラウン運動によって分散・配列が均一に行われるわけです。したがって、ブラウン運動を活発にするためには、釉薬を十分に溶かすこと(加熱)が重要になります。」とあります。発色が不十分だった辰砂釉の作品をもう一度窯で焼直すときれいな赤が出ることがあります。これは釉中の銅分が完全に還元されず残っていたものが再加熱によって還元されて発色するものです。銅のコロイド粒子は900 で発達するといわれています。900 で3時間再加熱(酸化)すると全体が真っ赤な辰砂釉になります、と「釉薬応用ノート」にあります。



「やきものをつくる 釉薬応用ノート」  
津坂和秀著

### 【銅の話いろいろ】

- エジプトの女王クレオパトラのアイシャドウは銅鉱の malaokait だった。銅貨などが錆びた時にできる緑青は、水酸化炭酸銅とも塩基性炭酸銅とも言われるが、これが鉱物として産出されるものが malaokait である。
- 万有引力で有名なアイザック・ニュートンは中国漢代のやきもの(釉薬の)研究もしていた。
- 辰砂釉は一般に鉄分のないボディーに施釉するが、均窯釉は鉄分のあるものにも施釉する。
- 果物の消毒用ボルドー液は硫酸銅と石灰を混ぜてつくる。
- 昔の交通信号用の青や赤も銅の発色だった。

### 編集後記「あとかんげん」

「二日酔いにはシジミの味噌汁がいい」と言われています。実際私も二日酔いの朝、頼んでシジミ汁を食べたことがあります。が、何となくアルコールの抜けが早かったように感じました。栄養学的にはシジミに含まれるタウリンという成分が、肝臓の解毒作用を促し、二日酔いの原因とされる成分(アセトアルデヒド)を分解するのだそうです。味噌汁にすることで水分も補給できるので脱水気味からだにまた良いようです。「酒は百薬の長」と言います。飲みすぎなければ健康に良いものという意味だと思いますが、それと逆に「酒は身を削るカンナだ」と個展落語の「試し酒」の中で言っています。これは少量であっても毎日飲むのは感心しないという意味でしょう。休肝日を週に一日くらいは設けたほうが良いというのは一般的な話です。最近の研究結果ですが、ひとりでお酒を飲んでばかりいる人は、大勢で飲んでいる人よりも脳梗塞になる確率が非常に高いそうです。気になる方は「日本生活習慣病予防協会」のホームページをご覧ください。さて、私が愛用している徳利とぐい呑みは生前の父の作です(私が使っているのをあえて「作品」とは言いません)。ある日、ふと気になったので容積を計ってみると、徳利が約230cc、ぐい呑みがちょうど100ccでした。その時は偶然だと思っていまらなかったのですが、以前購入した有名な作家さんのぐい呑みを計ってみたらこれもちょうど100cc、また別のぐい呑みも100cc、と言うわけで何故か100ccぐい呑みが4個もあるのです。単なる偶然か、作者の意図か。焼いて10数パーセント小さくなることを考えて作っているとすればこれはすごい事としか言いようがありません。ご存知の方はご教授ください。